

【ロサンゼルス便り】

赤岩寛隆・SHIPFAN社長。久石氏コンサート、ジブリ音楽で観客を魅了

「となりのトトロ」「もののけ姫」「千と千尋の神隠し」――。世界中で愛され続ける宮崎駿監督の映画作品で数々の名曲を生み出してきた作曲家・久石譲氏のフィルムコンサートが7月下旬、ロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団とのコラボで、ロサンゼルス野外音楽堂「ハリウッド・ボウル」で開かれた。

21―23日の3日間にわたる公演は約1万7500席を誇る巨大会場のチケットがほぼ完売となる盛況で、連日、会場は開演前から熱気と興奮に包まれていた。



ロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団を指揮する久石氏

筆者が参加した中日の22日は、夏の心地良い風が吹き抜ける中で開演。前半は北野武監督の映画音楽が中心だった。スクリーンに映し出される映像と共に、久石氏が奏でる力強いピアノと指揮の下、オーケストラのダイナミックな演奏が会場全体を支配する。重厚で臨場感あふれるサウンド、そして琴線に触れるメロディーの美しさに、観客は瞬く間に引き込まれ、演奏が終わるたび、その圧倒的な迫力に対して万雷の拍手を送った。

後半に入ると雰囲気は一変し、待望の「スタジオジブリ」コーナーへ突入する。

プログラムが「風の谷のナウシカ」「天空の城ラピュタ」、そして「となりのトトロ」と続くにつれ、客席の盛り上がりは最高潮に達する。演奏と同時に頭上の大型スクリーンには名作のワンシーンが次々と映し出され、有名な場面が登場するたびに場内からは大きな拍手や歓声が上がった。「となりのトトロ」の演奏では、客席から「歩こう、歩こう、私は元気」と思わず日本語で口ずさむ声も聞こえ始め、会場全体が徐々に熱気を帯びていった。

この特別な夜に彩りを添えたのは、久石氏の長女であり歌手の藤澤麻衣氏の澄んだ美声だ。さらにバックコーラスは地元のカリフォルニア州立大学フラートン校の混声合唱団が務め、重厚で壮大なハーモニーで会場を魅了した。

大盛況のうちに迎えたアンコールでは、「となりのトトロ」のエンディング曲が鳴り響いた。「トトロ、トトロ」とおなじみのメロディーが流れると、約1万7000人の観客が一斉に総立ちとなり、会場全体が手拍子に包まれた。一緒に口ずさむ人々であふれ返る中、熱狂の2時間公演はあっという間に幕を閉じた。

筆者の住むトーランスでも、ちょうど時を同じくしてジブリショップがオープンし、連日、大勢の人でにぎわっているという。日本を代表するアニメ作品がここ米国でも絶大な人気を誇り、子どもから大人まで国境を超えて愛されている様子を目の当たりにし、誇らしさとうれしさがこみ上げた。

世界情勢が緊迫の度を増す昨今だからこそ、人々の心を結び付け笑顔にしてくれるこのような公演は極めて貴重なものだと強く感じさせられた。

（赤岩寛隆・SHIPFAN社長）

あかいわ・ひろたか 韓国、中国の海運会社で20年にわたり北米定期航路の集荷営業に従事。食品製造会社、メディア会社を経て、北米唯一の海運、港湾、物流情報発信会社SHIPFANを13年9月に設立。ロサンゼルスフリーペーパーに「物流時報」を定期的に掲載するほか、物流コンサルティング、物流セミナー企画、輸出入サポート、貿易のマッチング業務を手掛ける。ご意見、ご希望などがあればメール（shipfan1@gmail.com）で連絡を。